

令和5年度第1回長久手市指定管理者選定委員会 議事要旨

令和5年8月4日（金）

午後2時から午後3時30分まで

市役所会議室棟2階 会議室H

- 委員の全員の出席により会議が成立していることの確認・挨拶
- 委員会が非公開であることについての確認
- 選定の流れについて説明（行政課）

●市が洞保育園・市が洞児童館の指定管理

指定管理期間：令和6年4月1日から令和7年3月31日まで（1年）

（申請者 株式会社ポピンズエデュケア 入室 抱負・アピール）

【申請者質疑】

委員：意見箱を設置し、児童や保護者等の意見を聞いているが、実際に子どもからイベントの内容について提案を受け、実施した例はあるか。

申請者：児童館の場合、年1回児童館まつりを実施している。企画の大枠は市内の児童館の会議で決定しているが、児童館ごとに行う遊びやまつりの当日の進行は、子どもの思いを大切に、極力その思いが実現できるよう支援している。

委員：学校に行けなくても、児童館なら通えると考えている小中高生もいると思う。居場所づくりとして工夫している点はあるのか。

申請者：つい先日保護者から、子どもだけでは学校に行けず、授業に参加できないが、居場所として児童館に行ってもいいかという相談を受けた。この件については、市が洞児童館独自の判断ではなく、長久手市の共通認識のもと、運営や対応をしていく必要があり、他の児童館長や他の児童館職員と連携をとり、確認する必要があると考える。

委員：今、市町村で中高生の居場所づくりが大きな課題になっている。資料を拝見すると中高生144名の来館を目指すとのことだが、中高生の来館に関しても各児童館足並みをそろえるという考えか。

申請者：中高生は授業時間が長い。そのあと部活動や習い事もあり、中高生が児童館に行くことができる時間をどれだけ捻出できるかが問題である。市が洞児童館は、法律上小型の児童館になるので、他の大型の児童館と違って開館時間の制限がある。下校後から閉館までの短い時間の中でどれだけ来館者を増やせるかが課題である。また、夏休みや冬休みの長期休暇に中高生が児童館に遊びに行きたい、児童館で勉強してみたい、スタッフなどの大人と関わりたいと考えてもらえるように児童館に足を運びたくなる企画を今後しっかりと考えていく必要があるという認識はしている。

委員：小学生と中高生では児童館の使い方が違うと思う。例えば小学生が遊んでいると中高生は遠慮して、施設を使うことができない。児童館に入ることすらできないこともある。様々な世代が同時に使えるよう棲み分けが必要だと感じる。今後検討して取り組んでほしい。

委員：児童館での障がい児の利用状況と、利用のための工夫点を教えてほしい。

申請者：私が市が洞児童館に配属されてからは対応した実績はないが、施設入口はスロープになっていて、手すりもついている。児童館内のトイレに関しては、男性用、女性用及び多目的トイレが完備されており、設備は十分に整えられている。玄関から廊下は段差もないので、杖の使用や、車椅子の利用は問題ないと認識している。

委員：放課後デイサービスの利用が多いと思うが、今後、障がい児の受入れも考えているのか。

申請者：検討している。今後、利用や受入れをする際には、児童館や児童クラブでの活動について、デイサービスで専門的な人から支援を受けて、子どもを育てたいという考え方なのか、あるいは児童館や児童クラブで他の子どもたちと同じように過ごしたいという考えがあるのかなど、保護者の思いを聞き取りした上で検討したい。

委員：保育園で障がい児の受入れはしていないのか。障がい児4人に対して1人、保育士が割り当てられると聞いた。病気や障がいの度合いによって、4人に1人で対応できるのか気になった。

申請者：現在障がい児の受入れはないが、療育を必要とする児童は受け入れて

いる。

委員：保育園は実績からいうと、平成31年から人数が増加していない。児童館は平成31年から比較すると令和4年には人数が半減している。その中で、指定管理料としては平成31年からずっと右肩上がりである。令和6年度の指定管理料も増額予定である。

申請書の収支計画書では、児童館と保育所に収支計画が分かれていない。私たち指定管理者選定委員は指定管理料が適正に使われる予定があるのかということを審査するが、正直審査できない。利用者が減っているのに、全体として指定管理料が増えているため、余分に請求している印象を受ける。補足で説明をお願いしたい。

申請者：児童館の利用者の減少は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、児童館自体を休館したことが大きな原因である。児童館が利用できる状況になった際も、利用者の居住している地域が制限されたり利用できる時間が制限された。さらに利用者同士の間隔を確保するため、その時間帯の最大利用者数を制限していた。

また、児童館の一部を児童クラブとして利用することとなり、児童館自体の利用者が減少している原因になっている。

委員：多目的室は児童クラブで使用している。それ以外のプレイルームでは、たくさんの利用者が安全安心に利用しようと思うと難しい環境ではあると思う。

申請者：児童館ではプレイルームは予約制で、1組の利用を10分に制限している。たくさん子どもたちにプレイルームで遊んでもらい、プレイルームの回転率を上げ、図書室の人口密度を下げる取り組みも検討している。

委員長：収支計画表の積算根拠については回答できるか。

申請者：現在、指定管理料は年間1億5,553万9千円である。その内訳は、保育所で1億3,393万9千円、児童館・児童クラブで2,160万円である。

増額分は処遇改善の金額で、保育所に264万円、児童館は39万6千円という金額を加算している。

委員：積算根拠は不明だが、指定管理料の増額分は処遇改善のためで、保育

士に全部支払っているということか。

申請者：臨時特例の処遇改善があり、その処遇改善を継続している。

委員：市民としては、必要なお金を子どもたちのために十分使い、保育所や児童館を運営してほしいと考える。そのためにも、わかりやすい申請資料作りを心がけてほしい。

私からの質問だが、現場を運営する人間として、市役所や市民に対して要望したい点はあるか。

申請者：保育園開所当初は、形のないことから始まったので、ものすごく大変だったが、市役所に助けてもらった。現在は市外の保育園の施設長をしている。比較してはいけませんが、長久手市の園長会議は、各保育園のことを理解してくれていて、助けてもらった。市一丸となって助けてもらったと思っており、要望したい点はない。

委員：資料を見て、保育の仕事は大事な仕事であることが改めてわかった。

よい保育サービスを提供しようとする、保育士のメンタルや健康が大事であると考え。メンタルケアを含めた保育士に対するマネジメントは、どういう点を意識しているのか教えてほしい。

申請者：保育園では、保育士には必ず休憩を取らせている。保育士は休憩時間も仕事をしようと考えてしまいがちだが、勤務体制によって1時間もしくは45分休憩を取らせている。また、メンタルケアの観点では職員の面談を3か月に1回、年間に複数回実施している。

乳児のクラスは、複数担任になる。複数担任は保育士で一番仕事しにくい。担任全員が同じ思いならいいが、思いが違くと保育士同士うまくいかなくなる。子どもたちにも影響する場合があるので、自分も時々保育に参加し、いつもと担任の雰囲気の違いを感じたら、そのクラスの保育士を呼んで、困っていることを聞き取っている。

児童館では、誰か特定の人に業務が偏らないよう、誰でも同じように対応できるように配慮している。施設長の負担を、会社並びにチームリーダーも含めてサポートしている。会社では産業医面談を、希望者に行っている。会社としては、残業は7時間以内、持ち帰り業務をしないことを目標としている。

委員：保育園では、記録を書いたり、日誌のコメントを書いたり、準備をする時間が必要である。そういう作業時間は日中に保障されているのか。

申請者：保障している。担任が抜ける場合はフリー保育士等が交代で保育し、配置が薄くならないようにしている。ICT化もしており、タブレット端末で連絡帳が書けるようになった。保護者が迎えに来るまでに連絡帳を見ることができるようになるため、保護者が連絡帳を見た上で担任と情報交換できるようになった。お迎えの前に連絡帳を発信する時間を作り対応している。

委員：大学連携や地域交流など計画されている。日常の保育も忙しいが、その中で、保育士がやらなければならないではなく、やりたい保育ができるようになると思う。地域交流は、例えば市が洞地区の場合まちづくり協議会が窓口になり連携している。地域交流のためどのような活動をされたのか。

申請者：大学生の実習生の受入れや、大学祭の参加は、大学から連絡をもらった。また、昨年度の第三者評価で地域連携について指摘があり、市に相談したところ、愛知県警の交通安全指導を紹介してもらった。シルバー人材センターからも連絡をもらい、暑い中側溝掃除や草抜きをしてもらった。

このつながりを大切にしなければならないので、一つずつお礼を丁寧に行っていきたいと考えている。

地域交流は児童館の強みでもある。今日は社会福祉協議会の実施する中学生の夏休みボランティア受入れの初日である。今日は中学生2名が児童館に来館している。中学生というと、普段は児童館で遊ぶ側だが、普段自分が遊んでいた児童館を一スタッフとして見たときに、児童館はどういう機能があるのか、スタッフは子どもたちが遊んでいる間に何をしているのかを知ってもらう機会になっている。近隣大学の保育実習生は、児童館での受入実績もあり、子育て支援センターや中央図書館とも連携している。児童館の建物自体は小さく、スタッフは少ないが、いろいろなところと繋がっており、利用者と他の機関とのつなぎ役として、地域の人の子育ての輪が広がるように、取り組んでいる。

委員長：保育園や児童館で日々のPDCAサイクル及び中期、長期に渡るPDCAサイクルについて知りたい。また、よいサービスを提供できるように保

育士に対する人材育成や、研修の実績を教えてください。

申請者：まず保育園の日々のPDCAサイクルについて説明する。保育者が保育日誌を作成している。子どもの様子を入力して、それを最終的に施設長が内容確認する。改善が必要な場合や今週できなかったことを、職員会議の中で報告する。緊急を要する場合は、その日のうちにフィードバックをし、1日のPDCAサイクルをまわしている。

児童館は開館前に3分から5分程度、出勤しているスタッフで運営日誌に基づいて、昨日から引継事項がないか、保護者への伝達事項がないか連絡調整を行っている。また、その日のスタッフの動きも確認している。施設長は、会議や研修があり、施設の外に出る機会が多い。このため、現場に残るスタッフに施設長がいつ、どのような要件で施設を離れるのかをきちんと伝え、施設長の不在時に、誰が責任者として現場を指揮するのか、安全を確保するのかという点も確認している。児童館は常勤スタッフは終日勤務しているが、子どもの受入れが始まる午後から出勤する非常勤スタッフもいるので、非常勤スタッフが出勤した際に、昨日の連絡事項も滞りなく、漏れなく伝えるよう意識している。

人材に対する研修は充実すべきと考えている。MBO制度を導入し、社員が個々に目標を立て、その目標の達成などについて振り返り面談をしている。施設長を目指す社員、主任を目指す社員など、それぞれの方針がある。どの研修に望めば一番最短で達成できるのかということを一覧にまとめている。施設長であれば、自分の右腕として誰を教育して、次期施設長とするのかというところをしっかりと方針、方向性をコミットメントし、研修の受講も、チームリーダーの現場の意見を聞きながら対応している。合わせて、1年に一回、キャリアアップシートを作成する。それに応じて人員配置や異動も検討し、それに向けた研修の設定も本社と行っている。

また、現場は怪我の発生が多い。毎月の全体会議で怪我の発生を共有する。それを情報として、どういう怪我がどういう場で発生し、どういうことに気をつけないといけないのかを、マニュアルに反映し、中長期的に更新しながら、気づきを現場に与えていくことも大事だと考えており、そういう点も含め教育として進めている。

(申請者退席・担当課質疑)

委員長：改めて担当課に質問があったらどうぞ。

委員：なし

(採点)

(採点・集計結果の報告・指定管理者候補者の決定)

「株式会社ポピンズエデュケア」 77.90点／100点。

指定管理者候補者として「株式会社ポピンズエデュケア」を決定。

(解散)